

経営比較分析表（平成29年度決算）

京都府地方独立行政法人京都市立病院機構 京都市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	500床以上	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	37	対象	ド透Ⅰ未訓ガ	救臨が感災地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	50,582	非該当	7：1	

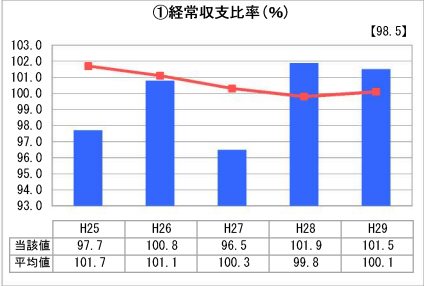
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

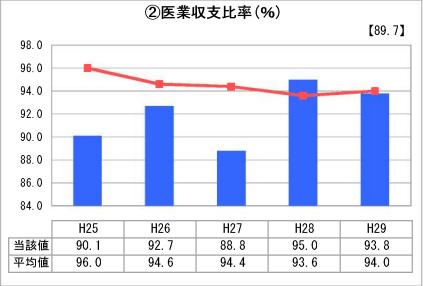
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
528	-	12
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	8	548
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
528	-	528

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 平成29年度全国平均

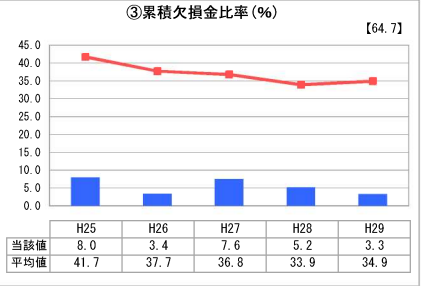
1. 経営の健全性・効率性



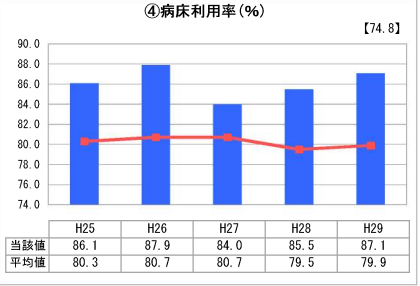
「経常損益」



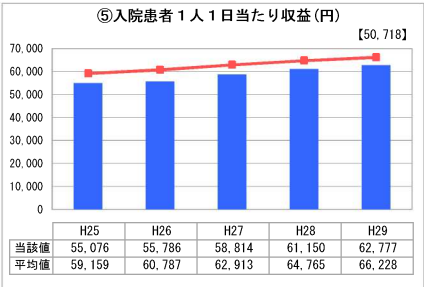
「医業損益」



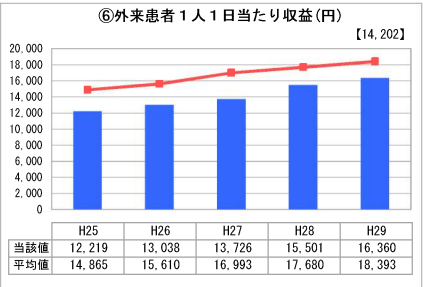
「累積欠損」



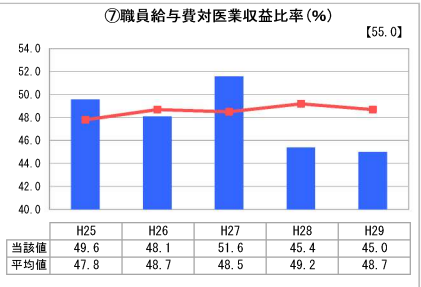
「施設の効率性」



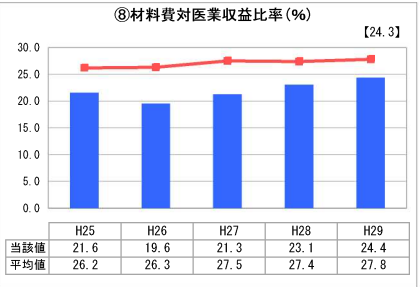
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

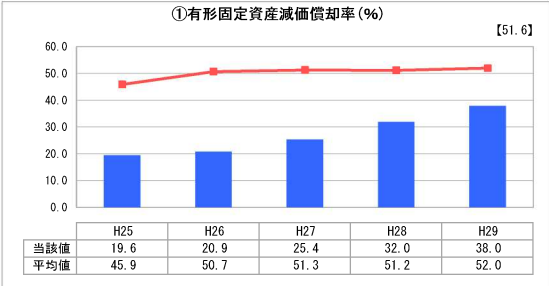


「費用の効率性①」

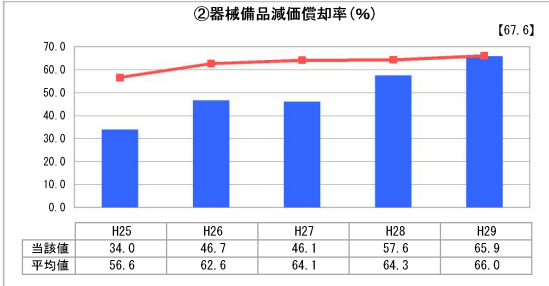


「費用の効率性②」

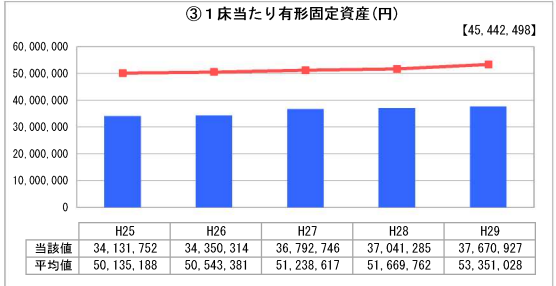
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

地域の医療・保健・福祉との連携を推進する中で、医療の質の向上や患者サービスの充実、優秀な人材の確保・育成に取り組むなどにより、政策医療を中心に高度な急性期医療を提供する基幹的医療機関としての役割を担う。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

第2期中期計画期間（平成27～30年度）の3年目に当たり、退院支援やクリニカルパスの見直し、ICU病床の上位加算取得等を進めたことにより⑤入院患者1人1日当たり収益及び⑥外来患者1人1日当たり収益が毎年上昇している。
また、入院早期からの退院支援に取り組むとともに、DPCⅡ期間超患者リストを作成し、診療費及び病棟に退院支援を促すなど効率的・効果的なベッドコントロールを図ったことにより④病床利用率が前年度を上回っている。
その結果、①経常収支比率が前年度を上回り、類似病院平均値を上回っている。

2. 老朽化の状況について

建物等施設整備については第1期中期計画期間において完成し、当面は同程度の減価償却費を計上することとなる。
器械備品においては、平成27年度の電子カルテシステム導入（更新）のため、①有形固定資産減価償却率及び②器械備品減価償却率が共に前年度を上回っている。

全体総括

ロボット支援手術をはじめ高度な手術の実施に向けて体制を強化したことが、手術件数の大幅な増加や病床稼働率の向上に寄与した一方、夜間・休日の救急応需体制に課題があり、救急車搬送受入数は減少した。
地域がん診療連携拠点病院としては、働くがん患者支援としての長期休暇期間等の一部開院（外来化学療法、放射線治療等）や診療時間の拡大等、より多くの患者ニーズに応える取組を進めた。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。